

平成 28 年度 細胞診専門医資格認定試験

<細胞像問題>

問題 1 46 歳、女性。検診、子宮頸部、ブラシ擦過

1. NILM (頸管腺細胞)
2. NILM (扁平上皮化生細胞)
3. HSIL (上皮内癌)
4. AIS
5. 腺癌

問題 2 32 歳、女性。不正出血、子宮頸部、ブラシ擦過

1. NILM (扁平上皮化生細胞)
2. NILM (修復細胞)
3. HSIL (中等度異形成)
4. 扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 3 31 歳、女性。検診、子宮頸部、綿棒擦過

1. NILM (修復細胞)
2. LSIL (軽度異形成)
3. HSIL (中等度異形成)
4. HSIL (上皮内癌)
5. 扁平上皮癌

問題 4 38 歳、女性。検診、子宮頸部、綿棒擦過

1. NILM (エクソダス)
2. NILM (修復細胞)
3. NILM (濾胞性頸管炎)
4. 類内膜腺癌 (G1)
5. 子宮内膜間質肉腫

問題 5 28 歳、女性。検診、子宮頸部、綿棒擦過

1. トリコモナス感染
2. クラミジア感染
3. 単純性ヘルペスウイルス感染
4. LSIL (軽度異形成)
5. HSIL (中等度異形成)

問題 6 48 歳、女性。不正出血、子宮体部、吸引

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 萎縮内膜
4. 類内膜腺癌 (G1)
5. 明細胞腺癌

問題 7 54 歳、女性。下腹部腫瘤、卵巣腫瘤捺印

1. ブレンナー腫瘍
2. 顆粒膜細胞腫
3. 漿液性腺癌
4. 明細胞腺癌
5. 卵黄囊腫瘍

問題 8 63 歳、女性。不正出血、子宮体部、ウテロブラシ

1. 子宮留膿症
2. 子宮内膜増殖症
3. 類内膜腺癌 G1
4. 類内膜腺癌 G3
5. 癌肉腫

問題 9 52 歳、女性。不正出血、子宮頸部、ブラシ擦過

1. NILM (修復細胞)
2. HSIL (高度異形成)
3. 非角化型扁平上皮癌
4. 腺癌
5. 絨毛癌

問題 10 63 歳、女性。不正出血、子宮体部、エンドサイト

1. 萎縮内膜
2. 類内膜腺癌 (G1)
3. 類内膜腺癌 (G3)
4. 漿液性腺癌
5. 明細胞腺癌

問題 11 76 歳、男性。2 次検診、気管支擦過

1. 基底細胞
2. 気管支上皮細胞
3. 定型的カルチノイド
4. 扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 12 65 歳、女性。肺腫瘍切除、腫瘍捺印

1. 結核症
2. カンジダ感染
3. クリプトコッカス感染
4. ニューモシスチス感染
5. サルコイドーシス

問題 13 45 歳、女性。胸部 X 線異常影、経皮的肺穿刺吸引

1. 基底細胞増生
2. 珪肺症
3. 結核症
4. 過誤腫
5. 硬化性血管腫

問題 14 65 歳、女性。肺腫瘍切除、腫瘍捺印

1. 結核症
2. アスペルギルス感染
3. 硬化性血管腫
4. 扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 15 72 歳、女性。尿道部腫瘍、自然尿

1. 良性尿路上皮細胞
2. 扁平上皮化生細胞
3. トリコモナス感染
4. 扁平上皮癌
5. 悪性黒色腫

問題 16 60 歳、男性。血尿、自然尿

1. 反応性尿路上皮細胞
2. 尿路上皮癌(低異型度)
3. 尿路上皮癌 (高異型度)
4. 扁平上皮癌
5. 腎淡明細胞癌

問題 17 58 歳、男性。肝機能異常、ERCP 膵液

1. 良性膵管上皮細胞
2. 反応性過形成上皮細胞
3. 漿液性嚢胞性腺腫
4. 膵管癌
5. 内分泌癌

問題 18 54 歳、男性。胃切除術、術中腹腔洗浄液

1. 中皮細胞
2. 組織球
3. 腺癌
4. 扁平上皮癌
5. 悪性中皮腫

問題 19 35 歳、女性。右乳腺腫瘤、穿刺吸引

1. 線維腺腫
2. 浸潤性乳管癌
3. 粘液癌
4. 髓様癌
5. 骨・軟骨化生を伴う癌

問題 20 50 歳、女性。甲状腺腫瘤、腫瘤捺印

1. 濾胞性腫瘍
2. 乳頭癌
3. 未分化癌
4. 髓様癌
5. 硝子化索状腫瘍

問題 21 63 歳、女性。 耳下腺腫瘤、穿刺吸引

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

問題 22 67 歳、男性。頸部リンパ節腫脹、穿刺吸引

1. 反応性濾胞過形成
2. 壊死性リンパ節炎
3. ホジキン病（古典型）
4. バーキットリンパ腫
5. びまん性大細胞型リンパ腫

問題 23 73 歳、女性。労作時呼吸困難、心嚢水穿刺吸引

1. 反応性中皮細胞
2. 組織球
3. 腺癌
4. 扁平上皮癌
5. 悪性中皮腫

問題 24 20 歳、女兒。腰痛、右腸骨穿刺吸引

1. 骨巨細胞腫
2. 軟骨芽腫
3. 軟骨肉腫
4. 骨肉腫
5. 転移性腺癌

問題 25 30 歳、女性。舌粘膜びらん、擦過

1. 単純性ヘルペスウイルス感染
2. サイトメガロウイルス感染
3. 扁平苔癬
4. 扁平上皮癌
5. 粘表皮癌

<筆記問題>

問題 26 日本臨床細胞学会認定施設に対する精度管理ガイドラインについて正しいのはどれか。

1. 報告書の保存期間は 1 年間を基本とする。
2. 細胞検査士は常勤であることが必須である。
3. 陰性標本の 5%以上においてダブルチェックを行う。
4. 細胞検査士の 1 日の検鏡枚数は 100 枚を上限とする。
5. 細胞診陰性例では細胞診専門医の検印は不要である。

問題 27 検体の採取と処理について正しいのはどれか。

1. 脳腫瘍の検体には圧挫法は適さない。
2. 胆汁は検体処理までの間氷冷下で保存する。
3. 早朝尿は細胞の変性が少ないため標本に適している。
4. 穿刺吸引細胞診の穿刺針は通常 14 ゲージを使用する。
5. 自己採取された喀痰は室温保存で 24 時間を超えても影響はない。

問題 28 細胞診の染色について正しいのはどれか。

1. ギムザ染色では塗抹後の強制乾燥は不要である。
2. ギムザ染色では乾燥後、95%エタノールでの固定が必要である。
3. ギムザ染色ではパパニコロウ染色よりも細胞剥離が起こりやすい。
4. パパニコロウ染色では固定前の標本乾燥は染色性に影響を及ぼさない。
5. パパニコロウ染色ではハリスヘマトキシリン使用時に廃液の厳重な管理が必要である。

問題 29 FISH 法について誤っているのはどれか。

1. ペルオキシターゼ試薬を用いる。
2. セルブロック標本を使用できる。
3. 染色体転座の確認に用いられる。
4. RNA 検出に熱変性が必要である。
5. 標本の観察には蛍光顕微鏡を用いる。

問題 30 液状化検体細胞診標本と直接塗抹細胞診標本の比較について正しいのはどれか。

1. 直接塗抹標本の方が乾燥が少ない。
2. 液状化検体標本では背景がきれいである。
3. 直接塗抹標本の方が細胞の重積は少ない。
4. 液状化検体標本の方が観察範囲が広い。
5. 直接塗抹標本の方が遺伝子検索が容易である。

問題 31 対策型子宮頸がん検診について誤っているのはどれか。

1. 対象年齢は 20 歳からである。
2. 施行間隔は 2 年に 1 度である。
3. 判定はベセスダシステムに準じて行う。
4. 体部細胞診との併用検診が推奨されている。
5. 妊娠女性以外では、へら又はブラシによる細胞採取が推奨されている。

問題 32 ベセスダシステム 2001 について誤っているのはどれか。

1. コイロサイトーシスが認められれば LSIL と判定する。
2. 微小浸潤扁平上皮癌を推定する場合は SCC と判定する。
3. 不適正と判定するには、その理由の記載が必要である。
4. ASC-US は HPV 検査もしくは 6 ヶ月以内の細胞診再検が推奨される。
5. 細胞採取量が規定より少ない検体は、異型細胞の有無にかかわらず判定しない。

問題 33 次の組み合わせで誤っているのはどれか。

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. カンジダ | — 仮性菌糸 |
| 2. ガードネレラ | — クルー細胞 |
| 3. レプトトリックス | — 毛髪様菌糸 |
| 4. ヒトパピローマウイルス | — 核周囲明庭 |
| 5. 単純性ヘルペスウイルス | — すりガラス状細胞質 |

問題 34 子宮内膜細胞診について正しいのはどれか。

1. 判定はベセスダシステムに準拠する。
2. 核分裂像が認められれば陽性と判定する。
3. 増殖期内膜細胞は明るい細胞質を有する。
4. 子宮内膜異型増殖症では分泌期類似の形態を示す。
5. 類内膜腺癌 G3は G1に比べ細胞の結合性が低下している。

問題 35 卵巣腫瘍の細胞像について正しいのはどれか。

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. ブレンナー腫瘍 | — two cell pattern |
| 2. 漿液性腺癌 | — Reinke 結晶 |
| 3. 顆粒膜細胞腫 | — Psammoma body |
| 4. 未分化胚細胞腫 | — two tone color |
| 5. 卵黄嚢腫瘍 | — hyaline globules |

問題 36 子宮平滑筋肉腫の細胞像につき正しいのはどれか。

1. すりガラス状核
2. 菲薄な細胞質
3. 小型の核小体
4. 均一な円形核
5. 重積性の強い細胞集塊

問題 37 肺癌集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分に関して正しいのはどれか。

1. 正常上皮細胞のみの場合は A 判定である。
2. B 判定の場合は1年以内の追加検査と追跡を行う。
3. 軽度異型扁平上皮細胞をみとめる場合は C 判定である。
4. 高度異型扁平上皮細胞をみとめる場合は D 判定である。
5. E 判定の場合は再検査を行う。

問題 38 正しい組み合わせはどれか。

- | | |
|---------------|---------|
| 1. マッソン体 | — 塵肺症 |
| 2. アミロイド小体 | — 肺胞蛋白症 |
| 3. ランゲルハンス細胞 | — 結核症 |
| 4. クルツシュマン螺旋体 | — 気管支喘息 |
| 5. ラングハンス型巨細胞 | — 誤嚥性肺炎 |

問題 39 肺腫瘍と細胞所見の組み合わせについて誤っているのはどれか。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 過誤腫 | — 硝子様軟骨細胞 |
| 2. 小細胞癌 | — 双極裸核細胞 |
| 3. 腺癌 | — 核偏在性 |
| 4. 定型的カルチノイド | — salt and pepper 状核 |
| 5. 大腸癌肺転移 | — 柵状配列 |

問題 40 尿細胞診にみられる所見と病原体の関係について誤っているのはどれか。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 多核細胞 | — 単純性ヘルペスウイルス |
| 2. 類上皮細胞 | — 結核症 |
| 3. デコイ細胞 | — 麻疹ウイルス |
| 4. コイロサイトーシス | — パピローマウイルス |
| 5. 核内封入体(Owl eye) | — サイトメガロウイルス |

問題 41 尿細胞診について正しいのはどれか。

1. 尿路上皮内癌の尿中出现率は高い。
2. 前立腺癌細胞の尿中出现率は高い。
3. 自然尿中に尿細管上皮細胞は出現しない。
4. 尿管カテーテル尿は腎細胞癌の検査に適している。
5. 自然尿では膀胱洗浄尿よりも多数の尿路上皮細胞が出現する。

問題 42 乳腺穿刺吸引細胞診について正しいのはどれか。

1. 管状癌は核異型性が強い。
2. 背景に粘液がみられたら悪性である。
3. 小葉癌は繊細なクロマチンを特徴とする。
4. 悪性葉状腫瘍では上皮成分が採取されやすい。
5. 乳管内乳頭腫では腫瘍細胞が孤立散在性に出現する。

問題 43 甲状腺病変の細胞像として正しい組み合わせはどれか。

1. 亜急性甲状腺炎 — 類上皮細胞
2. 橋本病 — 好中球背景
3. 腺腫様甲状腺腫 — 砂粒小体
4. 乳頭癌 — アミロイド物質
5. 未分化癌 — ローピーコロイド

問題 44 誤った組み合わせはどれか。

1. Barrett 食道 — 円柱上皮
2. アメーバ赤痢 — 赤血球貪食
3. 消化管間質腫瘍 — 線維芽細胞由来
4. 肝細胞癌 — 細胞質内の球状硝子体
5. MALT 型リンパ腫 — リンパ上皮性病変

問題 45 頸部リンパ節穿刺吸引細胞診で壊死を認めない疾患はどれか。

1. 結核症
2. 猫ひっかき病
3. サルコイドーシス
4. 肺小細胞癌転移
5. 甲状腺未分化癌転移

選択問題A

問題 46 HPV 感染について正しいのはどれか。

1. HPV 16 型は尖圭コンジローマの発生に関与する。
2. HPV 58 型は分葉状頸管腺過形成の発生に関与する。
3. HPV 18 型は最小偏倚型粘液性腺癌の発生に関与する。
4. ASC-US 判定には HPV-ジェノタイプ検査を行うことが望ましい。
5. コイロサイトには細胞質内ケラチンネットワークの破壊がみられる。

問題 47 子宮頸部上皮内癌の細胞像について正しいのはどれか。

1. 核の大小不同が著しい。
2. 重積性集塊が出現する。
3. 腫瘍性背景が認められる。
4. 大型の核小体が出現する。
5. 深層型の異型細胞が出現する。

問題 48 子宮頸部細胞診について正しいのはどれか。

1. 上皮内腺癌は孤立散在性に出現する。
2. 上皮内癌の N/C 比は80%以上である。
3. 壊死性背景が認められれば悪性と判定する。
4. 傍基底細胞は細胞質にケラトヒアリン顆粒を有する。
5. 分葉状内頸部腺過形成では著明な核の大小不同を伴う。

問題 49 子宮内膜細胞診における正常内膜細胞の特徴として正しいのはどれか。

1. 増殖後期には核下空胞がみられる。
2. 分泌期では豊富な細胞質を有する。
3. 増殖期では分泌期に比べ核は大きい。
4. 分泌期では強い重積性を持って出現する。
5. 増殖期の細胞集塊の辺縁には核の突出像がみられる。

問題 50 次のうち正しいのはどれか。

1. 絨毛癌では合胞体トロホブラストが出現する。
2. 卵巣腫瘍の腹水細胞診は臨床進行期決定に関与しない。
3. 高齢者の膣細胞診では細胞成熟指数(M.I.)は右方移動を示す。
4. 頸部腺癌の核クロマチンは扁平上皮癌に比べ粗大顆粒状である。
5. 膣細胞診でキャンボンボールが認められればトリコモナスの存在を疑う。

選択問題B

問題 46 原発性肺腺癌の細胞で陰性となることの多い抗体はどれか。

1. SP-A (サーファクタントアポ蛋白)
2. CK7
3. CDX-2
4. TTF-1
5. Napsin A

問題 47 膀胱癌について誤っているのはどれか。

1. 頻度の高い臨床所見は無症候性血尿である。
2. 非浸潤性乳頭状尿路上皮癌の頻度が最も高い。
3. 平坦型尿路上皮内癌は膀胱鏡で発見されにくい。
4. 異型角化細胞が確認された場合推定組織型は扁平上皮癌である。
5. 尿路上皮癌と共に小細胞癌が確認された場合推定組織型は小細胞癌である。

問題 48 乳腺原発であることを推定する上で有用な抗体はどれか。

1. AFP
2. CD20
3. GCDFP15
4. Calretinin
5. Chromogranin A

問題 49 粘表皮癌について誤っているのはどれか。

1. 小唾液腺に発生する。
2. 中間細胞が確認される。
3. 軟骨様組織がみられる。
4. 唾液腺悪性腫瘍の中で最も頻度が高い。
5. 粘液産生細胞が主体なものは低悪性度である。

問題 50 前癌病変はどれか。

1. 紅板症
2. 天疱瘡
3. 類天疱瘡
4. 単純性ヘルペスウイルス感染
5. カンジダ感染

選択問題C

問題 46 日本(平成 26 年人口動態統計)における口唇、口腔及び咽頭の悪性腫瘍の死亡者数はおよそどれか。

1. 2,500
2. 5,000
3. 7,500
4. 10,000
5. 12,500

問題 47 穿刺吸引細胞診が適しているのはどれか。

1. 扁平苔癬
2. 尋常性天疱瘡
3. 乳頭腫
4. 血管腫
5. 多形腺腫

問題 48 扁平苔癬にみられるのはどれか。

1. Asteroid body
2. Civatte body
3. Psammoma body
4. Russell body
5. Schaumann body

問題 49 歯原性混合腫瘍はどれか。

1. 歯原性粘液腫
2. セメント芽細胞腫
3. 腺腫様歯原性腫瘍
4. 角化嚢胞性歯原性腫瘍
5. 石灰化嚢胞性歯原性腫瘍

問題 50 多形腺腫における腫瘍細胞の腺上皮細胞にみられるのはどれか。

1. 骨化生
2. 軟骨化生
3. 腸上皮化生
4. 扁平上皮化生
5. アポクリン化生

＜鏡検問題＞ ①年齢・性別 ②臨床情報 ③検体・採取法
総合科

問題 1 ①38 歳・女性 ②検診 ③子宮腔部・ブラシ擦過

1. NILM(扁平上皮化生細胞)
2. NILM(カンジダ感染)
3. LSIL(軽度異形成)
4. HSIL(中等度異形成)
5. HSIL(高度異形成)

問題 2 ①60 歳・女性 ②腹部膨満感 ③卵巣腫瘍・腫瘍捺印

1. ブレンナー腫瘍
2. 粘液性腫瘍(境界悪性)
3. 顆粒膜細胞腫
4. 明細胞腺癌
5. ディスジャーミノーマ

問題 3 ①37 歳・女性 ②不正出血 ③子宮内膜・エンドサイト

1. 増殖期内膜
2. 子宮内膜炎(修復細胞)
3. 結核性内膜炎
4. 胞状奇胎
5. 絨毛癌

問題 4 ①45 歳・女性 ②検診 ③子宮内膜・ブラシ擦過

1. 萎縮内膜
2. 増殖期内膜
3. 分泌期内膜
4. 子宮内膜増殖症
5. 類内膜腺癌(G1)

問題 5 ①45 歳・女性 ②検診 ③子宮腔部・ブラシ擦過

1. NILM(修復細胞)
2. NILM(扁平上皮化生細胞)
3. LSIL(軽度異形成)
4. HSIL(高度異形成)
5. 微小浸潤扁平上皮癌

問題 6 ①60 歳・女性 ②検診 ③子宮腔部・ブラシ擦過

1. NILM(濾胞性頸管炎)
2. NILM(萎縮性腔炎)
3. LSIL(軽度異形成)
4. HSIL(上皮内癌)
5. 扁平上皮癌

問題 7 ①46 歳・女性 ②不正出血 ③子宮腔部・ブラシ擦過

1. NILM(トリコモナス感染)
2. LSIL(軽度異形成)
3. 扁平上皮癌
4. 腺癌
5. 小細胞癌

問題 8 ①60 歳・女性 ②不正出血 ③子宮頸管・ブラシ擦過

1. NILM(頸管腺細胞)
2. NILM(予備細胞増生)
3. AIS
4. 扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 9 ①52 歳・女性 ②検診 ③子宮内膜・吸引

1. 増殖期内膜
2. 子宮内膜増殖症
3. 類内膜腺癌(G1)
4. 類内膜腺癌(G3)
5. 漿液性腺癌

問題 10 ①35 歳・女性 ②帯下 ③子宮腔部・ブラシ擦過

1. NILM(カンジダ感染)
2. NILM(トリコモナス感染)
3. NILM(ガードネレラ)
4. LSIL(軽度異形成)
5. HSIL(高度異形成)

問題 11 ①40 歳・女性 ②乳腺しこり ③乳腺腫瘤・穿刺吸引

1. アポクリン化生
2. 線維腺腫
3. 浸潤性乳管癌
4. 粘液癌
5. 髓様癌

問題 12 ①42 歳・女性 ②頸部腫脹 ③甲状腺腫瘤・穿刺吸引

1. 慢性甲状腺炎
2. 腺腫様甲状腺腫
3. 濾胞性腫瘍
4. 乳頭癌
5. 髓様癌

問題 13 ①55 歳・男性 ②頸部腫脹 ③リンパ節・穿刺吸引

1. 結核症
2. 反応性濾胞過形成
3. ホジキンリンパ腫
4. 非ホジキンリンパ腫
5. 未分化癌

問題 14 ①55 歳・男性 ②検診・胸部異常陰影 ③右肺・喀痰

1. 気管支上皮
2. リンパ球
3. 小細胞癌
4. 定型的カルチノイド腫瘍
5. 悪性リンパ腫

問題 15 ①50 歳・女性 ②頭痛 ③頭蓋内腫瘤・腫瘤捺印

1. 慢性硬膜下血腫
2. 髄膜腫
3. 膠芽腫
4. 転移性腺癌
5. 悪性リンパ腫

問題 16 ①35 歳・男性 ②陰嚢腫脹 ③精巣腫瘤・腫瘍捺印

1. セミノーマ
2. 胎児性癌
3. 卵黄嚢腫瘍
4. 絨毛癌
5. 悪性リンパ腫

問題 17 ①66 歳・女性 ②咳 ③気管支・ポリープ状腫瘤・腫瘍捺印

1. 過誤腫
2. 平滑筋腫
3. 扁平上皮癌
4. 腺癌
5. 定型的カルチノイド

問題 18 ①58 歳・女性 ②腹部膨満感 ③腹水・穿刺吸引

1. 漿液性境界悪性腫瘍
2. 粘液性境界悪性腫瘍
3. 漿液性腺癌
4. 類内膜腺癌
5. 悪性中皮腫

問題 19 ①65 歳・男性 ②水腎症 ③尿管・カテーテル尿

1. 良性尿路上皮
2. 良性尿細管上皮
3. 高異型度尿路上皮癌
4. 扁平上皮癌
5. 小細胞癌

問題 20 ①78 歳・男性 ②検診・胸部異常陰影 ③縦隔リンパ節・穿刺吸引

1. 扁平上皮癌
2. 小細胞癌
3. 腺癌
4. 大細胞癌
5. 定型的カルチノイド

＜鏡検問題＞ ①年齢・性別 ②臨床情報 ③検体・採取法
歯科

問題 1 ①20 歳・男性 ②顎骨内病変（透過像） ③捺印

1. 歯根嚢胞
2. 角化嚢胞性歯原性腫瘍
3. エナメル上皮腫
4. 顎骨中心性扁平上皮癌
5. 粘表皮癌

問題 2 ①80 歳・女性 ②頸部リンパ節腫大 ③穿刺吸引

1. 非特異性リンパ節炎
2. 結核性リンパ節炎
3. 悪性リンパ腫
4. 転移性腺癌
5. 転移性扁平上皮癌

問題 3 ①35 歳・男性 ②口蓋腫瘤 ③擦過

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 腺様嚢胞癌

問題 4 ①70 歳・男性 ②頸部リンパ節腫大 ③穿刺吸引

1. リンパ節炎
2. 悪性リンパ腫
3. 転移性扁平上皮癌
4. 転移性悪性黒色腫
5. 転移性甲状腺乳頭癌

問題 5 ①40 歳・女性 ②舌粘膜白色病変 ③擦過

1. カンジダ感染
2. ヘルペスウイルス感染
3. 軽度異形成
4. 高度異形成
5. 扁平上皮癌

問題 6 ①66 歳・女性 ②耳下腺腫瘤 ③穿刺吸引

1. 粘液瘤
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺房細胞癌
5. 唾液腺導管癌

問題 7 ①65 歳・男性 ②口蓋腫瘍切除後、頸部リンパ節腫大 ③穿刺吸引

1. 非特異性リンパ節炎
2. 結核性リンパ節炎
3. 悪性リンパ腫
4. 転移性扁平上皮癌
5. 悪性黒色腫

問題 8 ①50 歳・男性 ②顎骨内病変（透過像） ③捺印

1. 歯根嚢胞
2. 角化嚢胞性歯原性腫瘍
3. エナメル上皮腫
4. 石灰化嚢胞性歯原性腫瘍
5. 顎骨中心性扁平上皮癌

問題 9 ①75 歳・男性 ②耳下腺腫瘤 ③穿刺吸引

1. ワルチン腫瘍
2. 腺房細胞癌
3. 唾液腺導管癌
4. 扁平上皮癌
5. 悪性黒色腫

問題 10 ①76 歳・女性 ②歯肉粘膜白色病変 ③擦過

1. 再生上皮
2. 扁平苔癬
3. 軽度異形成
4. 扁平上皮癌
5. 腺癌

問題 11 ①63 歳・男性 ②耳下腺腫瘤 ③穿刺吸引

1. 耳下腺炎
2. 多形腺腫
3. ワルチン腫瘍
4. 粘表皮癌
5. 悪性リンパ腫

問題 12 ①53 歳・男性 ②顎骨内病変（透過像） ③捺印

1. 急性骨髓炎
2. 角化嚢胞性歯原性腫瘍
3. エナメル上皮腫
4. 顎骨中心性扁平上皮癌
5. 骨髓腫